

令和元年度特別会計決算

特別会計は、特定の事業を行う場合や特定の収入により事業を行う場合、その事業に係る経理を一般会計と区別する必要があるため、条例により設置している会計です。

国民健康保険特別会計

収入 15億 6299万円
支出 15億 3540万円

主な収入は、保険税 2億 4209万円、県の補助金 10億 9471万円、一般会計からの繰入金 1億 5358万円です。主な支出は、医療費 10億 7873万円、国保事業費納付金 3億 7382万円などです。

国民宿舎特別会計

収入 1億 719万円
支出 1億 492万円

主な収入は、指定管理者納入金 2471万円、一般会計からの繰入金 8006万円です。主な支出は、電気設備、機械設備などの部分改修工事費 1103万円、企業債元利償還金 8082万円です。

後期高齢者医療特別会計

収入 2億 3763万円
支出 2億 2971万円

主な収入は、加入者が納めた保険料 1億 6173万円、一般会計からの繰入金 6822万円です。主な支出は、後期高齢者医療広域連合納付金 2億 1594万円です。

公共下水道事業会計

収益的収入 7億 2342万円
収益的支出 6億 8649万円
資本的収入 7996万円
資本的支出 2億 5960万円

主な収益的収入は、下水道使用料 3億 4505万円、一般会計からの負担金と補助金 1億 1876万円です。主な収益的支出は、管渠やポンプ場、浄化センターの費用 1億 9957万円、企業債利息 2074万円です。

主な資本的支出は、下水道ストックマネジメント計画基本構想策定委託 1700万円、企業債元金償還金 1億 2938万円です。

給食センター特別会計

収入 1億 3216万円
支出 1億 2999万円

主な収入は、給食費収入 5611万円、一般会計からの繰入金 7393万円です。主な支出は、給食材料費 5547万円、そのほかは、委託料、光熱水費、人件費などです。

モーターボート競走事業会計

収益的収入 1032億 5564万円
収益的支出 1004億 1334万円
資本的収入 0万円
資本的支出 2億 3066万円

主な収益的収入は、芦屋本場開催の発売金などの開催収入 600億 8631万円、他場開催の発売金などの場外発売受託事業収入 431億 3167万円です。主な収益的支出は、売り上げに伴う払戻金や交付金、選手賞金などの開催費 546億 9799万円、他場開催の払戻金などの場外発売受託事業費 420億 423万円です。

主な資本的支出は、映像装置や投票機器などのリース料、施設の改修工事などの建設改良費 2億 2965万円です。

芦屋中央病院貸付金特別会計

収入 4億 1176万円
支出 4億 1176万円

芦屋中央病院の町債の借り入れや、借り入れた町債の返済を行うための会計です。

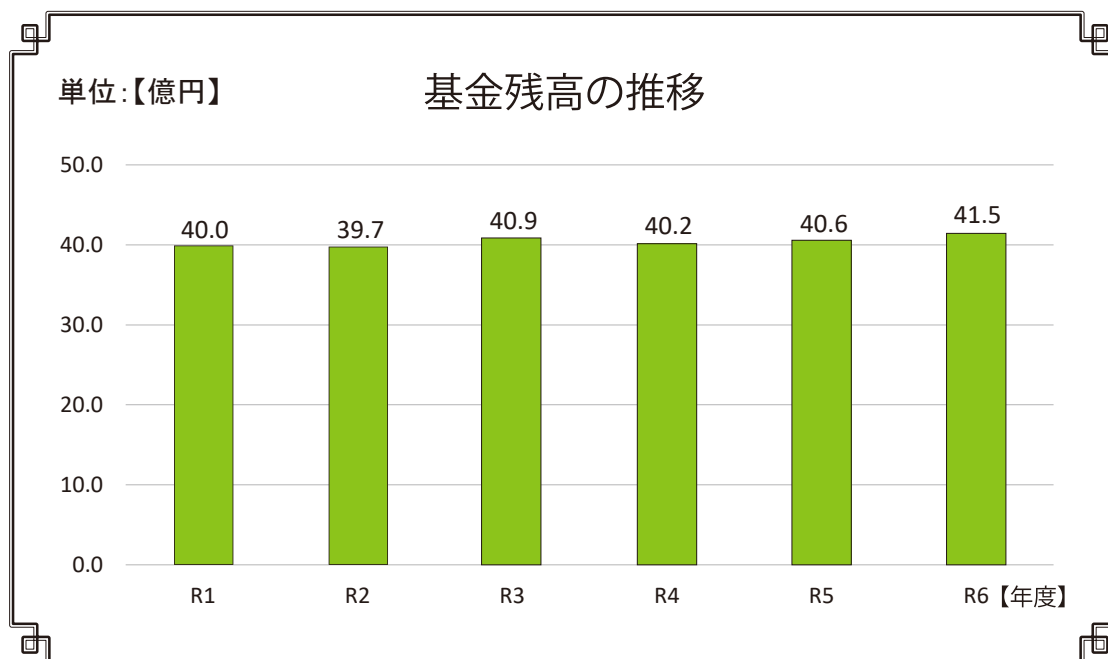
主な収入は、医療機器整備のために借り入れた町債 5070万円です。主な支出は、町債の返済費用で 3億 6106万円です。

今後5年間の財政運営の見通し

(財政シミュレーション)

財政シミュレーションとは、今後の財政運営がどうなっていくかを令和元年度決算と令和2年度決算見込額の数値を参考に、一定の設定条件のもと作成したものです。

このなかで、町の貯金にあたる「基金」がどのように推移していく見込みであるか説明します。



■5年後の基金残高見込みは

40億円を確保

基金残高の推移をみると、多少の増減はあるものの、令和6年度末の基金残高は40億円を確保する見込みです。

■昨年度シミュレーションとの比較

今回作成した財政シミュレーションと昨年度作成したものを比較してみると、令和6年度末の基金残高は約1億8千万円減少しています。

減額の主な要因として、小中学校建具改修事業費などの臨時的経費を反映させたことが挙げられます。

■芦屋町の基金残高は比較的多い

令和元年度の標準財政規模（※1）に対する基金残高の割合は、104%です。

福岡県内60市町村で100%を超えているのは21市町村なので、令和元年度末時点の芦屋町の基金残高は比較的多いといえます。

基金残高が多い理由のひとつとして、モーターボート競走事業収入が挙げられ、この収入は令和6年度まで継続して見込んでいます。このため、今後も100%を超える見込みで推移することから、引き続き安定的な財政運営ができるものと判断しています。

（※1）標準財政規模とは、地方公共団体の一般財源の標準的な規模のことで、経常的に収入しうる一般財源の大きさを表します。